

# 持続可能な社会について考えられる工夫

持続可能な社会に関連する内容を各所に掲載し、教科書全体を通して持続可能な社会について考えられるように工夫しています。めざされている社会がどのようなものか巻頭で捉えた上で、様々な教材に触れ、持続可能な社会を実現する構想の活動を行うことで、持続可能な社会について自分ごととして捉えられるようにしました。

## 巻頭口絵

教科書の巻頭に、様々な事例とともに持続可能な社会と生徒自身とのかかわりについて考えられるページを設定しました。

巻頭1-2

**SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS**

持続可能な社会とは、国家の人々に豊かさを提供しつづけていくことができる社会のことです。持続可能な社会をつくるために、先進国と発展途上国がともに連携して、2016年から2030年までの15年間の目標として「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」が定められています。日本を含めた世界の国々、これからの世代のためにさまざまな取り組みを行っています。

持続可能な社会と私たち

世界では、人々の活動によって排出される二酸化炭素の量が、森林によって吸収される二酸化炭素の量を超過しています。排出量と吸収量の差が、大気中の二酸化炭素濃度を上昇させています。二酸化炭素濃度の上昇は、地球温暖化を引き起こし、気候変動や海面上昇などの深刻な影響をもたらしています。持続可能な社会を実現するためには、二酸化炭素の排出量を削減し、吸収量を高める取り組みが必要です。

カーボンニュートラルの実現に向けて

カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの排出を削減し、吸収量を排出量と同等にする状態を指します。カーボンニュートラルを実現するには、再生可能エネルギーの活用や省エネルギーの取り組み、森林の保全や植林などの取り組みが必要です。

## 議論してみよう

第2編第2章・第3編第3章の各節の最後に設定している「議論してみよう」では、持続可能な社会づくりをふまえて、地域の課題の解決に取り組む活動を提案しています。

**議論してみよう 東京への一極集中についてディベートしよう**

関東地方にみられる地域の課題「過密化ともなうさまざまな課題」(P.239)を解決するために、東京への一極集中を緩和することについて、ディベートしましょう。

**賛成** 私は一極集中を緩和するのに賛成です。なぜなら、通勤・通学の混雑が改善して、東京に住む人々にとってプラスになるからです。

**反対** 私は反対です。都市機能が分散すると効率が悪くなります。東京が世界の大都市と競争していくには、都市機能の集中が必要ではないでしょうか。

私も都市機能を地方中核都市などに分散してもいいと思います。交通網も発達しているし、通信網も整備されているからです。

過密化による問題は改善しつつあるし、東京にはいろいろな魅力があるから人々が集まり、活気があるのだと思います。

**STEP 1** 自分の立場(賛成/反対)を明らかにしてから、理由を説明しましょう。

**STEP 2** 賛成/反対の理由に説得力をもたせるために、根拠となる事実をつけ加えましょう。

**STEP 3** 自分の言いたいことばかり主張するのではなく、相手の主張もしっかり聞いてから反論しましょう。

P.249

## 議論してみようの一覧

タイトル	掲載箇所
2編2章1節 アジアの課題をどう解決する?	P.61
2編2章2節 離脱前と離脱後のイギリスの人々の声を聞いて判断しよう	P.77
2編2章3節 自立のための取り組みの優先順位をグループで話し合おう	P.89
2編2章4節 大量生産・大量消費の生活を維持する? しない?	P.105
2編2章5節 さまざまな立場の人々と熱帯雨林を守る方法を考えよう	P.117
2編2章6節 あなたの考える多文化社会って?	P.129
3編3章1節 環境保全と観光業を両立させよう	P.185
3編3章2節 四国新幹線の整備について考えよう	P.201
3編3章3節 体験を重視した観光ツアーを企画しよう	P.217
3編3章4節 産業の競争力を維持する方法を考えよう	P.233
3編3章5節 東京への一極集中についてディベートしよう	P.249
3編3章6節 これから10年間の復興計画を考えよう	P.265
3編3章7節 持続可能な地域の在り方を考えよう	P.281

## 持続可能性について考えることができる様々な教材

環境問題・環境保全、災害・防災、産業、地域活性化など、様々な観点から持続可能性について考えることができる教材を設定しています。

**現在** **2050年**

二酸化炭素の排出 **二酸化炭素の排出**

二酸化炭素の吸収

**カーボンニュートラルの実現に向けて**

5 電気自動車を充電しているようす (2021年 横浜市青葉区)

P.159

**知識・情報が つながらない** **人々のニーズに 対応できない**

**すべての人と ものがつながる** **さまざまなニーズに対応**

**必要な情報の提供** **人の可能性が広がる**

**情報が多すぎる** **行動が制約される**

**技術革新でめざされている社会**

P.270

**Society5.0**

4 ジャガイもを掘る収穫機をひっぱり無人トラクター(2020年 更別村)

P.270

## 環境保全

5 宇田から見た熱帯雨林の変化(ブラジル) 6 写真の中央部にはダムが建設されています。

7 世界の大豆の生産量

緑色の部分が大きく減少しているね。減少した部分は農地に変ったのかな。

8から9への変化と7のグラフから、どのようなことが考えられるかな。

P.111

## 持続可能な地域をめざしての一覧

タイトル	掲載箇所
未来都市シェンチェンの発展	P.50
SDGsで世界をリードするヨーロッパ	P.66
アフリカの豊かな資源がもつ可能性	P.82
アメリカと世界の未来	P.94
熱帯雨林の豊かな自然環境と経済発展	P.110
ニュージーランドにみる多文化社会	P.122
せまりくる巨大地震こそなえて	P.154
ハザードマップを活用しよう	P.155
交通・通信からみる新型コロナウイルス感染症	P.164
プロスポーツのキャンプが地域にあたる影響—宮崎県日南市を例に—	P.174
橋の開通に未来を「かける」—徳島県鳴門市を例に—	P.190
歴史を大切に近畿地方の地域づくり—京都市を例に—	P.206
工業と漁業が共存する「海」—愛知県知多半島を例に—	P.222
ニュータウンの課題と再生をめざす取り組み—多摩ニュータウンを例に—	P.238
復興の先をみすえて—東北地方の太平洋沿岸を例に—	P.254
未来をみすえた農業・漁業の取り組み—えりも・十勝を例に—	P.270

## 地域統合

**持続可能な地域をめざして SDGsで世界をリードするヨーロッパ**

EUを推進する欧州議 議の数は加盟国に比例して決まっています。

EUの拡大

EUの拡大は加盟国に比例して決まっています。

「欧州グリーン・ディール」の政策分野

①グリーン・エネルギー エネルギーの生産と消費による二酸化炭素の排出量を減らす

②持続可能な産業 競争力と環境保全の両立をめざす

③エネルギー・資源の消費が少なく建物への移行 エネルギーや資源の消費が少なく建物への移行

④持続可能なスマートモビリティ 輸送の二酸化炭素の排出量を減らす

⑤自然多様性および生態系の保護 生物多様性、森林や海等の健全さを取り戻す

⑥農産物から食品まで 自然への影響を抑えながら安全で高品質の食品を生産する

⑦汚染ゼロ 大気、水、土壌の汚染を防止する

「欧州グリーン・ディール」が関連するSDGsの目標

EUとは

EUとは、経済や教育の面で協力し合っている国々のグループです。

EU加盟国は、EUのルールに従って行動し、EUの目標を達成するために協力しています。

EU加盟国は、EUのルールに従って行動し、EUの目標を達成するために協力しています。

EU加盟国は、EUのルールに従って行動し、EUの目標を達成するために協力しています。

P.66

**注目**

**SDGsマーク**

「持続可能な地域をめざして」「地理+α」「まとめとふり返し」などの中で、SDGsと特に関連する箇所にはSDGsマークを付しています。

**注目**

**SDGsとその先を見すえた社会についての解説**

現在取り組まれている持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標を取り上げるとともに、カーボンニュートラルやSociety5.0の概念について解説し、SDGsの先の未来を生徒が見すえられるようにしました。

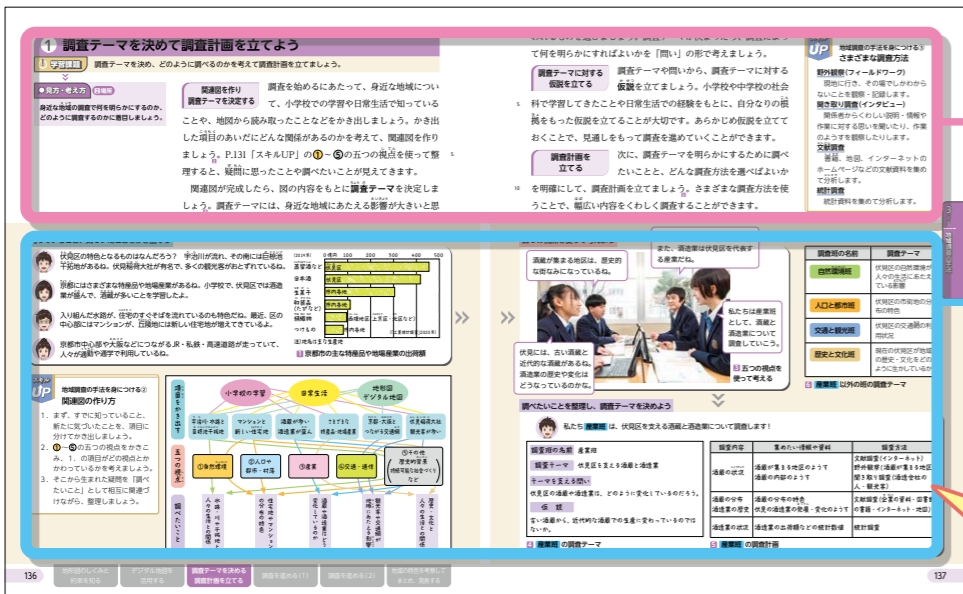
# 地域調査と地理的技能

第3編では、第1章(地域調査の手法)と第4章(地域の在り方)で地域調査を実施して調査結果をまとめ、考察・構想までを確実に進めるようにしました。また、地域調査学習で役立つのはもちろん、地理学習の基盤となる地理的技能を身につけるコーナーを充実させ、情報活用能力を高め、地理的事象について考え、判断し、自分の言葉で表現できるようにしました。

## 第3編第1章 地域調査の手法

第3編第2章・第3章で用いる視点(考察の仕方)をもとに、五つの調査班に分かれて地域調査を進めます。教科書では、産業班を例に取り上げています。

**注目!** 第3編第1章では事例地域として京都市(伏見区)を取り上げました。修学旅行の事前学習や当日の現地での活動など、京都を訪れる際にも活用できます。



地域調査の方法論を記述した、どの地域でも使える汎用的な内容

事例地域に即した具体的な調査活動の例

**注目!** 汎用的な内容と具体的な内容を見開きの上下に分け、背景色を変えることでわかりやすく示しました。

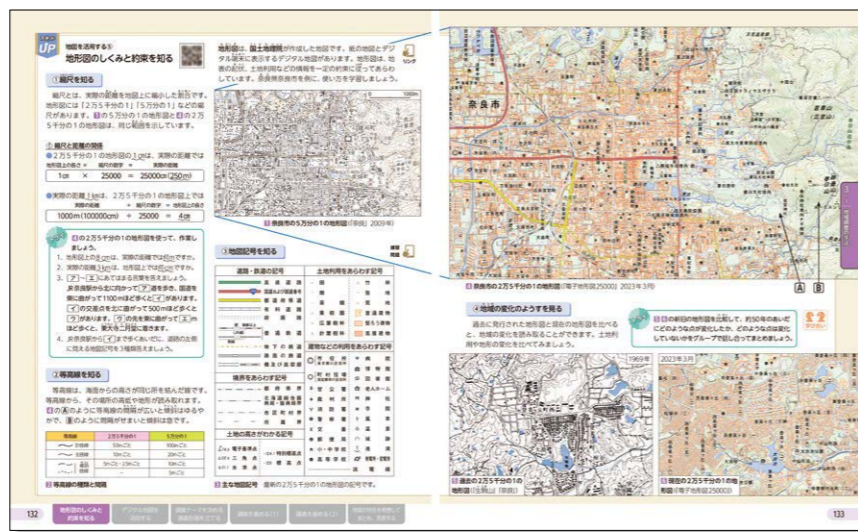
P.136-137

第3編第1章で身につけた地域調査の手法を、第3編第4章の学習の際も使っていくため、地域調査の手法を確実に身につけられるよう工夫しています。



### 地形図の読み取り方・デジタル地図の使い方

第3編第1章では、単元の最初で、地域調査に役立つ地形図の読み取り方とデジタル地図の使い方について詳しく解説しています。



P.132-133

## 第3編第4章 地域の在り方

第3編第2章・第3章の学習を踏まえて、身近な地域のどのような課題を追究するか決定し、情報を集めて課題の解決プランを考察・構想します。そして「未来創造会議」を開いてプランを発信し、地域の方々からのコメントを踏まえてプランを改善します。このようにして社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養います。

**注目!** 第3編第4章では事例地域として宮崎市を取り上げました。地域の課題として人口減少を取り上げており、様々な地域で参考にいただけます。



P.292

## スキルUP



地理の学習を進めるにあたって必要な技能を右の6種類に整理し、詳しく解説しています。発達の段階に応じて、地理的技能を系統的に身につけることができます。

- 統計資料を活用する……8、28、49、55、157
- 地図を活用する……13、23、41、97、132、134、155
- 写真を活用する……26、272
- 地理的なきまりを身につける……11、12、17
- 地域調査の手法を身につける……131、136、137、139、140、143
- 地域の在り方を考える……284、285、289、291

## 注目! 解説+ 問いや活動

解説とともに、問いや活動を提示することで、地理的技能を定着させることができます。

P.41

**スキルUP** 地図を活用する③ 主題図の読み取り方①

**世界主要宗教の人口 (The World Factbook 2022)**

キリスト教	24.2億人
イスラム教	19.4億人
ヒンドゥー教	11.2億人
仏教	5.1億人
その他	17.8億人
<b>世界計</b>	<b>77.7億人</b>

**世界の宗教の分布 (『ディルケ世界地図帳』2018年)**

注) 斜線部分は、複数の宗教が混在しています。

◆地図の大きさは限られているため、分布のすべてを示していません。例えば日本には、神道やキリスト教を信仰している人もたくさんいます。

◆「面積が広い=多い」ではありません。Bを見て、仏教・ヒンドゥー教の分布の面積と、信仰する人口を比べましょう。

## 資料活用



地図やグラフから地理的事象を読み取ることで資料活用能力の向上を図るとともに、生徒が自分の言葉で表現することで思考力、判断力、表現力等の向上を図るコーナーを適宜設定しています。

**3 瀬戸内とその周辺の工業** (『経済センサス』2021年)

資料活用 工業が盛んな地域の分布を、交通網の分布と比べましょう。

各都市の最も出荷額が多い業種

- 製紙
- 化学
- 石油製品
- プラスチック製品
- 鉄鋼
- 非鉄金属
- 一般機械
- 電子部品
- 電気機械
- 輸送機械

工業製品出荷額 (2020年) [2000億円以上]

- 3兆円
- 1兆円
- 5000億円

P.195

タイ	合計 70億ドル (1982年)	米 14.1%	野菜 14.0%	砂糖 8.1%	その他 57.6%
マレーシア	合計 2314億ドル (2020年)	機械類 31.4%	自動車 9.9%	その他 48.8%	
インドネシア	合計 120億ドル (1982年)	石油 27.4%	木材 16.2%	機械類 14.7%	その他 32.2%
インドネシア	合計 2339億ドル (2020年)	機械類 43.4%	その他 42.1%		
インドネシア	合計 223億ドル (1982年)	石油 56.5%	天然ガス 13.0%	その他 24.9%	
インドネシア	合計 1632億ドル (2020年)	石油製品 10.6%	石炭 10.1%	鉄鋼 8.9%	その他 63.5%

**5 東南アジアの主な国の輸出品の変化 (UN Comtrade)**

資料活用 鉱産資源に青色、農産物に緑色、工業製品に黄色をぬって、輸出品がどう変化したか読み取りましょう。

P.55

# 実践的な災害・防災教育

第3編第2章では、自然災害、防災・減災(自助・共助・公助)について詳しく学習し、それを踏まえた実践的な学習を提案するページを設けました。また、第3編第3章でも防災・減災に関する教材を充実させるように努めました。

## 第3編第2章 (系統地理的学習)

地震・火山災害、気象災害など日本各地で発生する様々な災害について学習するページです。

P.150

地震では大きな被害が発生することがあるんだね。

1 阪神・淡路大震災で倒壊した高速道路(1995年 神戸市東灘区) 2 東日本大震災で沿岸部をおそった津波(2011年 岩手県宮古市)

### 3 自然災害からみた日本の地域的特色と地域区分

学習課題 日本では、地域によって起こる自然災害にどのようなちがいがみられるのでしょうか。

見方・考え方 人と自然とのかわり 地域によって、自然災害の起こりやすさが異なることに着目しましょう。

地震・火山による災害 日本は環太平洋造山帯にあり、地震や津波、火山による自然災害の多い国です。地震は、規模(マグニチュード)が大きい場合、強いゆれで建物などを破壊し、土砂くずれや液状化現象を引き起こすことがあります。1995年には

防災・減災のための取り組みについて学習するページです。

P.152

1 避難場所を示す看板(2022年 奈良県王寺町) 2 避難所のようす(2019年 神奈川県厚木市) 3 中学校で行われる避難訓練(2018年 静岡県強由市) 4 建物の耐震工事(2022年 東京都東村山市) 5 自衛隊の救助活動(2019年 佐賀県武雄市)

### 4 災害にそなえるために

学習課題 自然災害から地域や人々の生活を守るために、私たちはどのような取り組みをするべきでしょうか。

災害に対して、私たちはどのようなそなえができるのかな。

災害時の避難経路を考える活動を通して、ハザードマップの使い方を身につけることができるページです。

P.155

### ハザードマップを活用しよう

ハザードマップは、自然災害の発生時に、どこでどのような被害になるかを想定した地図です。地震の震度、津波や洪水による浸水域や深さ、火山災害がおよぶ範囲など、災害の種類に応じてさまざまなハザードマップが発表されています。

身近な地域のハザードマップを入手して、事前に防災・減災へのそなえをしておきましょう。ハザードマップは、市町村が主に印刷して配布したり、インターネットで公開したりしています。

#### ハザードマップの使い方

入手方法 紙のハザードマップ 市町村の役所に問い合わせ、入手しましょう。インターネット 「ハザードマップポータルサイト」から、全国各地のハザードマップが閲覧・ダウンロードできます。

使い方 自宅、中学校、通学路の位置を読み取る。ハザードを確認し、それらの位置がどのような災害のおよぶ範囲に含まれているか、どの程度の被害が想定されているかを読み取る。避難所がどこにあるかを確認しておく。

注意! 実践的な学習 具体的な活動により、生命や安全の確保に主体的に取り込むことができます。

災害・防災について、体系的に学習を進めていくことができます。

## 第3編第3章 (各地方での学習)

第3編第2章で学習した日本全体にみられる自然災害が、それぞれの地方で人々の生活にどのような影響をあたえているかを学習します。また、その地域で行われる防災・減災の取り組みを取り上げました。

P.246-247 第3編第3章第5節 関東地方

人口が集中した都市にはどんな課題があるか。このように解決をめざしているのかな。

1 地川周辺の再開発地区とスーパー堤防(2020年 東京都江東区・江村町) この再開発地区は、建物が密集している地域の防災拠点となるために整備されました。スーパー堤防は、幅が非常に広く、川の増水に強い堤防です。

2 小倉水門 排水機場 市川ロックゲート

### 5 持続可能な都市づくりに向けて

学習課題 東京都市面では、さまざまな課題を克服するために、どのような取り組みを行っているのでしょうか。

見方・考え方 過密化による課題への取り組み P.241で学習したように、東京では過密化によって、都心やその周辺でさまざまな施設を

3 ときどきの防災公園(IKE-SUNPARK)を走る電バス(2021年 東京都葛飾区) 葛飾区では、防災機能をそなえたときどきの防災公園など、沿線駅周辺の回つたの公園を中心としたまちづくりを進めています。これらの公園などをつなぐ電バスは、災害時には非常用電源として使うことができます。

4 地下調査池(2022年 東京都杉並区・早稲田区) 東京23区西部の大通りの地下30~40mほどの深さにあります。

P.265 第3編第3章第6節 東北地方

### 議論してみよう これから10年間の復興計画を考えよう

東日本大震災から10年以上たった現在も、被災地は復興の途上にあります。市街地や農地・港湾などの再建が進むなか、東北地方にみられる地域の課題「震災から10年以上経過した現在の課題」(P.255)を解決して持続可能な社会をつくるためには、今後どのように復興を進めていけばよいのでしょうか。何について、どのように取り組むのか、それはなぜかをグループで話し合い、被災地の「これから10年間の復興計画」を考えて提案しましょう。

私が考える復興計画は( )です。

<p><b>事実・根拠</b></p> <p>【例】被災地に戻らず生活を続ける人も多く、移転・造成した新しい市街地には空き地が目立つ。</p>	<p><b>理由付け・考察</b></p> <p>【例】人口の回復は難しいのではない。</p>	<p><b>主張・結論</b></p> <p>【例】人口が大きく減少した状態が続く前提で復興計画を考えると…?</p>
---	---	---

節の学習の最後には、防災・減災の視点を踏まえた地域づくりについて構想するコーナーを設定した地方もあります。

### 第3編第3章の各地で取り上げた災害・防災に関わる教材の例

- 九州地方
  - 自然環境に影響を受ける人々の生活(P.176~177)
- 関東地方
  - 持続可能な都市づくりに向けて(P.246-247)
- 東北地方
  - 復興の先をみすえて-東北地方の太平洋沿岸を例に-(P.254-255)
  - 震災からの復興と災害に強い地域づくり(P.262-263)
  - これから10年間の復興計画を考えよう(P.265)